

晴小秋涼多佳、壽意即壯剛年如  
 尖良、保上先般去根直樹氏、以  
 難題、儀ヤ、出、審早、連、即、承、讓、之、下  
 初、積、多、之、志、物、果、在、物、得、風、誦、之、  
 情、何、其、難、中、亦、出、之、金、一、期、に  
 明年一月、以、知、定、之、ら、ん、也、  
 厚、得、之、具、道、之、高、之、者、方、之、  
 通、任、是、之、解、題、之、中、に、以、り、信、言

大阪府下大和國  
 芳野郡大瀧村  
 土倉庄三郎殿

289  
4 215  
51

いたがきたいすけしよかん      どくらしょうざぶろうあて  
**板垣退助書簡      土倉庄三郎宛      板垣退助自筆**

九月十四日付      二枚 付封筒  
 縦25.2cm      横17.7cm

「板垣死すとも自由は死せず」で有名な自由党党首の板垣退助が、盟友の後藤象二郎（ごとうしょうじろう）他二名と共に明治十五年十一月より翌年六月まで、ヨーロッパを私的に外遊する為の費用を土倉庄三郎へ依頼した書簡。この洋行費全額が政府より出されたという噂から、意外な疑惑騒動をもたらし、党首の座も危うくなった。板垣の命を賭けた一大誓約、「大和の土倉氏より出た」との言葉も信用されず、論争は続いた。約百年後に奇しくも掲載の領収証が発見され、板垣の言葉が立証される事となった。この書簡は明治新政府の裏

面史をかざる重要な資料の一つ。土倉氏伝来の古文書中のもので、昭和三十四年の伊勢湾台風による大水害で古記の大方は亡失し、残った約三千点の文書が昭和四十二年に本館に寄贈され、その中から発見された。

土倉庄三郎は現奈良県吉野郡川上村に在した人物。天保十一年（一八四〇）生まれで吉野林業中興の祖にして奈良県の山林王の一人。十八歳で吉野川を独力で改修、自費で吉野山中の道路を整備した。地元を始め日本各地、さらに台湾へも植林事業を行う一方、奈良公園の造園にも力を入れ

た。他にも私財を投じて地元小学校を開校し、また、同志社大学の設立や日本女子大学の発展にも多大の寄付を行った。明治十年前後から自由民権運動に投じて、関係政客への財的援助者となり、種々の活動への出資者となった。

（天理図書館 中村迪也）



代理者による領収書

天理図書館のお知らせ Tel:0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>  
 平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）  
 ただし10月18、26、29日は休み  
 （本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）